

スマート・オコメ・チェーンコンソーシアム 会員インタビュー

スマート・オコメ・チェーンコンソーシアムの会員様にお話をお伺いする会員インタビュー。

日本生活協同組合連合会の特別商品グループ グループマネージャーの
説田智三様にお話を伺いました。

Q 貴会の取組や特色について教えてください。

日本生活協同組合連合会は、各地の生協や生協連合会が加入する全国連合会で、米事業としてCO・OP米（以下コープ米）を主としてコープデリ、ユーコープ、コープきんき等との共同開発品として年間6万トン供給しています。

また日本生協連商品検査センターにおいて、放射性物質検査、残留農薬、品種判定等の検査も行っています。

コープ米は、全ての商品が指定産地米で、産地と継続した関係性のもとで供給を行っています。

現在、42のJA・団体が指定産地となっており、全農県本部、経済連も14団体、計56団体の全ての産地に少なくとも年2回、訪問しています。産地訪問では、生産者数や作付面積、契約状況や集荷状況、品質状況や生産履歴などといった産地情報の確認や、こちらからは、販売状況や計画の進捗状況、放射性物質などの検査結果や組合員からのご意見などの情報提供しています。

また、必ず担当卸と訪問しており、営業担当者にきてもらい、精米時の品質検査情報や玄米評価、市場情報を報告いただき、産地、各米卸、日本生協連が情報や問題点を共有し、目線をあわせています。例えば、令和元年産は8月の猛暑の影響で全国的に高温障害が発生し、特に新潟が大きな影響を受け、新潟コシヒカリの1等米は2割程度だったと思います。白未熟粒が多く、粉状質粒がかなりの割合で入ってしまう状態でしたが、産地訪問で詳細な状況を確認し、品質には問題はないとして、商品に説明するシールを貼ってお知らせし、通常通り販売しました。



日本生活協同組合連合会
第一商品本部
農畜産部特別商品グループ
グループマネージャー
説田 智三氏

普段から産地訪問を重ね、情報を蓄積していることで早急な対応ができ、実際に、供給量は落ちることなく販売することができました。ところで、産地訪問は、3人で3カ月～4カ月ほどかけて訪問しており、最初の産地と最後の産地では生育ステージにかなり差が出てしまうため、速報性や即時性、比較容易性にはついては問題があります。こうした点は、スマート・オコメ・チェーンによる米に関する生産から消費への情報連携基盤が整うこととなれば、有効な解決策になりうるのではないかと考えています。

当会の取組みは、産地、米卸、生協、組合員で相互に情報共有し、理解を深めることで、安全で安定した生産から組合員に支持される商品を安定的に提供することです。これは、スマート・オコメ・チェーンの理念と近いものとして理解しており、その実現に期待しています。その期待とともにオコメ・チェーンにこうあって欲しいと考えています。

まず、信頼できる相手にのみ幅広い情報が提供されることが重要ということです。

我々が産地訪問する際、コープ米取引卸であれば、より広く知見を得てもらい、コープ米全体のレベルアップにつなげたいと、担当でなくても同席可能としています。事前に産地には打診しますが、断られることもあります。長らく取引関係があり毎年訪問してくる米卸、日本生協連だから話すこと、見せる資料もあるでしょうし、そこに突然、同席というのは難しいのも当然です。

スマート・オコメ・チェーンの情報連携基盤は、より広く公開し、多くの関係団体が活用できることに価値があることは理解しますが、公開データの範囲については十分に検討し、公開者が個別に範囲を設定できるものであることが必要かと思います。また、その性質上、ある程度長期的な関係性を前提とすることが参加条件になるのではないかと考えています。

もう一つは、スマート・オコメ・チェーンは、最終的には消費者の利益になるものであって欲しいということです。その意味では、食味や食味表現の規定、銘柄別の適正料理の表現、など食味に関する検討には期待をしています。

例えば、各銘柄の特徴がひと目でわかる比較グラフなどあれば分かりやすいですが、科学的根拠をもっておこなうことは、とても難しいですし、食味計もどこまで実態を反映しているのかは、まだまだ不透明だと思います。

ただ、例えば、いわゆる低アミロース米については粘りの強い米といって差し支えないでしょうし、タンパク値も一定程度食味を表す項目になりえているのではないかと思います。一定の規定の下で、根拠をもって特徴を明示できるようになれば、消費者の選択の幅も広がるでしょうし、最終的には米の需要拡大につながる、と期待しています。

Q コンソーシアム会員に向けたメッセージをお願いします。

多種多様な業界からコンソーシアムに参加されており、そうした意味では米業界だけではできない技術的なブレークスルーといったことも期待できるのかもしれませんが。

ただ小売量販店業界からの参加が少ないようですので、そうした業界からの参加も増えて、実務的に有効なスマート・オコメ・チェーンの情報連携基盤の構築ができるとよいかと思います。

また生協では、生協版GAPとも呼ばれる適正農業規範についても取り組んでいます。そうしたことも含めて、微力ながら日本の米の情報基盤づくりに貢献できればと考えています。

ー ありがとうございました ー



コープ米の商品の一部
全国各地の銘柄米を約35品種
銘柄を取りそろえて提供されています。

CO-OP
日本生活協同組合連合会

<https://jccu.coop/>